

令和7年度

「運営に関する計画」

自己評価（総括シート）

大阪市立白鷺中学校
令和7年4月

課題ユニット目標

ユニット	令和5年度目標	令和6年度目標	令和7年度目標
キャリア教育	基礎的・汎用的能力の育成にかかる項目でのポジティブ回答 90%以上。	基礎的・汎用的能力の育成にかかる項目でのポジティブ回答 90%以上。	基礎的・汎用的能力の育成にかかる項目でのポジティブ回答 90%以上。
防災教育	防災 ALT 生徒対象—「やりがいがあった」の回答 90%を目指す。防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった「はい」の回答 80%以上を目指す。地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上を目指す。全校生徒アンケートで「防災について考えることが大切だと感じるようになった」1年生：75%以上、2年生：80%以上、3年生：85%以上を維持する。	防災 ALT 生徒対象—「やりがいがあった」の回答 90%を目指す。防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった「はい」の回答 80%以上を維持する。地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上を維持する。全校生徒アンケートで「防災について考えることが大切だと感じるようになった」1年生：75%以上、2年生：80%以上、3年生：85%以上を維持する。	防災 ALT 生徒対象—「やりがいがあった」の回答 90%を目指す。防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった「はい」の回答 80%以上を維持する。地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上を維持する。全校生徒アンケートで「防災について考えることが大切だと感じるようになった」1年生：75%以上、2年生：80%以上、3年生：85%以上を維持する。
生徒会	①生徒アンケートの結果「学校が楽しい」の項目の学校平均 80%以上をめざす。 ②生徒会へのアンケートで生徒会役員の「やりがいがあった」という回答で 85%以上をめざす。	①生徒アンケートの結果「学校が楽しい」の項目の学校平均 80%以上を維持する。 ②生徒会へのアンケートで生徒会役員の「やりがいがあった」という回答で 85%以上を維持する。	①生徒アンケートの結果「学校が楽しい」の項目の学校平均 80%以上を維持する。 ②生徒会へのアンケートで生徒会役員の「やりがいがあった」という回答で 85%以上を維持する。
元気アップ	①地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、・地域の方と交流するのが楽しいと答える生徒が 95%以上。 ②地域の方と積極的に交流できたと答える生徒 85%以上。	①地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、・地域の方と交流するのが楽しいと答える生徒が 80%以上を目指す。 ②地域の方と積極的に交流できたと答える生徒 80%以上を目指す。	①地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、・地域の方と交流するのが楽しいと答える生徒が 80%以上を維持する。 ②地域の方と積極的に交流できたと答える生徒 80%以上を維持する。
学力向上(授業研究/ICT)	①チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ②生徒意識調査で「ICT 機器を使った授業」に対するポジティブ回答 77%以上。	チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ②生徒意識調査で「ICT 機器を使った授業」に対するポジティブ回答 78%以上。	チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ②生徒意識調査で「ICT 機器を使った授業」に対するポジティブ回答 79%以上。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は課題ごとに「キャリア教育」「防災教育」「異学年交流」「元気アップ」「学力向上（授業研究・ICT）」の教員グループ作り、「豊かな心の育成」を教育目標として特色のある取り組みを行い、今までに「キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰」、ぼうさい甲子園「優秀賞」（令和 5、6 年度連続）などを受賞しその成果が認められた。

一方で大阪府中学校チャレンジテストの対府比は学年が上がるにつれて漸増するが、1.00 を超えるまでに時間を要している。「話し合う活動」や「ICT 機器の活用」が必ずしも授業内容の理解と結びついていない。論理的思考の前提となる語彙力・読解力や各教科の基礎基本の定着が喫緊の課題である。小中連携を一層推進し、基礎的な「知識・技能」を徹底して身につけさせた上で「学びに向かう力」を養成しなければならない。核となる授業力を高め、学力向上を加速させる必要がある。

またワンステップ（不登校支援ルーム）の一層の活用を図り、不登校生徒の改善の割合を増加させることが課題である。日々の生徒の心情を一層細かく把握するために「心の天気」の活用の徹底と相談活動の一層の充実を図りたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいいことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 90% 以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- ・年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 95% 以上にする。
- ・年度末の校内調査における「学校が楽しい」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 82% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における学級の生徒における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 71% 以上にする。
- ・年度末の校内調査における「授業がわかる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 85% 以上にする。
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 50% 以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒割合を 59% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・年度末の校内調査における「生徒用パソコンの使用や、話し合い活動を通して積極的に授業に参加している」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 87%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「ICT 機器を活用した授業は楽しい」に対して肯定的回答をする生徒の割合を 80%以上にする。
- ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末校内調査における「学校が楽しい」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 82%以上にする。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 71%以上にする。
- 年度末の校内調査における「授業がわかる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 85%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒割合を 59%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 年度末の校内調査における「生徒用パソコンの使用や、話し合い活動を通して積極的に授業に参加している」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 87%以上にする。
- 年度末の校内調査における「ICT 機器を活用した授業は楽しい」に対して肯定的回答をする生徒の割合を 80%以上にする。
- 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、授業日の 20% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立白鷺中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末校内調査における「学校が楽しい」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を82%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を95%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1-1 いじめへの対応】(生徒支援部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちを中心にいじめを許さない学校づくりを行い、いじめの未然防止に努める。 ・いじめ事案が起こった場合は、学校として許さない姿勢を貫き、一貫した対応を行う。被害者のケアを第一優先に行い、必要に応じてスクールカウンセラーや関係諸機関と連携を図り、心の回復にあたる。また、加害者に対しても二度と起こさぬよう、教職員及びスクールカウンセラーでカウンセリングを行い、必要に応じて関係諸機関との連携を図る。事案によっては学級及び学年で事案について考えさせる時間を設け、再発防止に努める。 ・生徒（被害、加害）または保護者の対応に関しては、教職員は一人で対応せず、必ず複数で対応し、学年団、管理職等、学校全体で対応を行う。 <p>(安心・安全な教育環境の実現)</p> <p>指標：</p> <p>①校内調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目のポジティブ回答を95%以上にする</p> <p>②校内調査において「友達を大切にしている」の項目のポジティブ回答を95%以上にする</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

・取組内容②【1-2 不登校への対応】(生徒支援部)	
<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー育成に伴い、小集団（班活動、学級活動など）の活動を通して生徒同士のつながりを深め、学年や異学年集団（委員会活動、部活動など）の中に一人ひとりの居場所や役割を確保し、いじめを許さない明るい学校づくりに努める。 ・集会、昼食、休憩時間などに生徒観察を行い、問題行動への未然防止、早期発見、初期対応ができるようにする。 ・各学年の生徒支援チーフを中心に教職員間で密な連携を図り、学校全体でいじめやトラブル等の未然防止に努める。 ・登校できなくなってしまった生徒には、学校元気アップ地域事業本部と連携し、「one step」（不登校支援ルーム）の利用を進めていく。教職員と元気アップサ 	

<p>ポーターと連携をして、保護者との情報共有を行い、不登校生徒の支援を行っていく。</p> <p style="text-align: right;">(安心・安全な教育環境の実現)</p> <p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 校内調査において「学校が楽しい」の項目のポジティブ回答 83%以上を維持する。 ② 校内調査において「友達を大切にしている」の項目のポジティブ回答 92%以上を維持する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	
取組内容③【1－5 防災・減災教育の推進】〈防災 G〉	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に応じた学年ごとの防災教育を設定し、地域・関係諸機関と連携し、学習を進める。子どもの防災リーダーの育成を目指し、多くの取組を行う。 ・自他の命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力・貢献できるような人材を育成する。 	
(安心・安全な教育環境の実現)	
指標:	
<p>〈防災 ALT 生徒対象〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで「やりがいがあった」の回答 90%以上。 ・防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった。「はい」の回答 80%以上。 ・活動を通じて地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上。 <p>〈全校生徒対象〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査において「防災について考えることが大切だと感じるようになった」の項目に対するポジティブ回答—1年生 75%以上、2年生 80%以上、3年生 85%以上。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	
取組内容④【2－2 キャリア教育の充実】〈キャリア教育 G〉	
<p>自分自身をしっかりと内観させ、将来への展望を持たせると共に、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる取り組みをすすめる。</p>	
(豊かな心の育成)	
<p>指標 :基礎的・汎用的能力の育成に関わる項目での、ポジティブ回答を 90 %以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

取組内容⑤【2－3 人権を尊重する教育の推進】(生徒会 G)

- ・生徒同士の連携（元気アップ、防災 ALT、各種委員会等）を図り、生徒主体の学校づくりを目標とし、「学校がたのしい」と思えるように、生徒一人ひとりの居場所や役割を確保する。
- ・生徒議会を中心に、生徒自らが学校をよりよくするためのアイデアを出し合い、すべての生徒が安心で安全な学校になるよう学校全体で心掛けていく。また意見ボックス等も活用しながら生徒の意見を反映しやすい環境を生徒会で整える。
- ・「いじめを許さない学校づくり」を目標に、いじめについて考える日や生徒会新聞を通して、いじめについての啓発活動を行い、生徒一人ひとりが過ごしやすい学校づくりを生徒たちと一緒に考えながら、学校環境を整えていく。

指標：

- ①校内調査において「学校が楽しい」の項目で学校平均 80%以上を維持する。
- ②校内調査において「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」の項目で学校平均 90%以上を目指す。
- ③校内調査において「友達を大切にしている」の項目で学校平均 90%以上を目指す。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

取組内容⑥【2－1 道徳教育の推進】(道徳教育推進委員会)

- ・年間指導計画に基づき、系統立てた実践を行い、生徒の道徳的心情を育てる。
- ・学年の課題に合わせて内容を選択し、教材の精選を行う。
- ・話し合い活動等をしながら自分の意見を伝え他人の意見を聞く機会を多くとる。
- ・道徳の授業の相互参観を行う。(豊かな心の育成)

指標：自分の意見を考え深めることができた、他人の意見を聞き尊重することができ
ポジティブ回答 78%を目指にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

取組内容⑦【1－3 問題行動への対応】(生徒支援部)

- ・取り組み内容【1－2】でも記載したように、小集団や学年・異学年集団を通して、生徒一人ひとりの居場所を確保し、いじめだけではなく問題行動への発展を未然に生徒同士で注意しあえる環境を整えていく。
- ・集会、昼食、休憩時間などに生徒観察を行い、問題行動への未然防止、早期発見、初期対応ができるようにする。
- ・各学年の教員を中心に教職員間で密な連携を図り、学校全体でいじめやトラブル等の未然防止に努める。
- ・生徒が問題行動を起こしてしまった場合は、学年の生徒支援部のチーフ・学年主任と連携し、指導の計画を立て、情報を共有していく。ケースによっては生徒支援部長・生徒指導主事も参画し、必要であれば関係諸機関との連携も図っていく。

(安全・安心な教育環境の実現)

指標 :
①校内調査において「学校のきまり・規則を守っている」の項目のポジティブ回答85%以上を維持する。
②校内調査において「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」の項目のポジティブ回答90%を維持する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

取組内容⑧【2-3 人権を尊重する教育の推進】〈人権教育推進委員会〉

- ・校内で連携をはかり、人権尊重の教育実践を進める。
- ・違いを認め合い、いじめや差別を許さない集団を育成する。
- ・平和学習の取り組みを行うことにより、人権尊重の意識を高める。
- ・国際理解教育の実践の発展を模索する。 (豊かな心の育成)

指標：校内調査において、

- ・「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」(昨年98%)
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」(昨年98%)
- ・「まわりの人と協力しようとしている」(昨年96%)

の項目で、昨年度同様高い水準を維持する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

取組内容⑨【2-4 インクルーシブ教育の推進】〈インクルーシブ教育推進委員会〉

- ・特別支援学級在籍の有無に関係なく、特別な支援を必要とする生徒にできる限の支援を行う。
- ・生徒が自立し、主体的に社会参加できる力が養われるような支援を教員が計画し教育活動を行う

(豊かな心の育成)

指標：・全職員に配慮を要する生徒の情報を提供し、共有する。

- ・学年や学級担任、保護者と密に連携をとり、よりよい支援が計画できるようにする
- ・学年を超えて、特別支援学級担任全員で生徒を支援する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立白鷺中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかつた D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた	
年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を71%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「授業がわかる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒割合を59%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈授業研究G・ICTG〉</p> <p>チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p style="text-align: right;">(誰一人取り残さない学力の向上)</p> <hr/> <p>指標：各学年のチャレンジテストの前年度と比較する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	
<p>取組内容②【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈国語〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに小テストや漢字テストを継続的に行う。また、プリントや漢字練習の宿題を出すことで基礎学力の定着を図る。 ・読書習慣をつけさせるために、学級文庫や図書館の利用をすすめる。 <p style="text-align: right;">(誰一人取り残さない学力の向上)</p> <hr/> <p>指標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を78%以上にする。 ・1学期に1回学校図書室を利用する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点	
<p>取組内容③【4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈社会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題を課して、家庭学習の定着を図る。 ・言語活動や話し合い活動につながるような授業の工夫を行う。 ・ICTを使った授業作りを心掛け、アクティブラーニングを取り組む。 <p style="text-align: right;">(誰一人取り残さない学力の向上)</p>	
<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を80%以上にする。 ・全学年の提出物の回収率が8割を超えるようにする。 ・全学年でICTを活用し、よりわかりやすい授業を展開する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	
<p>取組内容④【4－1 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成）】〈数学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り学習やTTを行い、生徒一人一人の学びの充実化を図る。 ・ICT機器を活用し、分かりやすい授業を行う。 <p style="text-align: right;">(誰一人取り残さない学力の向上)</p>	
<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を70%以上にする。 ・全学年でICT機器を活用し、よりわかりやすい授業を展開する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	
<p>取組内容⑤【4－1 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成）】〈理科〉</p> <p>興味関心をもたせる・学習意欲を向上させるために、理科室での実験やICT機器を利用した授業を推進する。また、基礎学力を定着させるために、プリントを用いた学習や小テストを作成・実施し、また家庭学習教材も工夫する。(誰一人取り残さない学力の向上)</p>	
<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を78%以上にする。 ・理科室は全学年で、年間90回以上利用する。 ・ICT機器の利用やプリント学習、小テスト、家庭学習課題を週に3回以上実施する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	
<p>取組内容⑥【4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈音楽〉</p> <p>音楽の基礎的な知識の定着を図り、音楽・表現活動の中で音楽に対する感性や理解を深め、豊かな情操を養う。</p> <p style="text-align: right;">(誰一人取り残さない学力の向上)</p>	

指標

- ①学校アンケートで「音楽の授業がわかる」と回答する生徒を80%以上にする。
- ②定期テストにおける正答率2割以下の生徒を5%以下にする
- ③各学年で学期に一回以上、班活動などの主体的で対話的な活動を取り入れる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

取組内容⑦【4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈美術〉

- ・1年生は美術学習においての基礎基本、準備や片付けの丁寧さの定着をはかる。
- ・2年生は情報収集や社会においての美術、意見交流を経て表現力を想像力の意欲向上を目指す
- ・3年生は時間の計画性と日常で使える美術作品、個々の作品の共有、自己表現の追求をはかる。
- ・家庭学習の提出、作品の完成期限を守る意識の定着（誰一人取り残さない学力の向上）

指標

- ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を80%以上にする。
- ・全学年の提出物の回収率を7割超えるようにする。
- ・スマールステップ形式を取り、ICTを活用し、よりわかりやすく説明をする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

取組内容⑧【5－1 体力・運動能力向上のための取組の推進】〈保健体育〉

- ・タブレット・プロジェクター・電子黒板・拡大資料・ホワイトボードを系統的に使用する。
- ・知識の観点からも理解を深めるため、教科書・保健学習ノート・図解中学体育（実技の教科書）を使用し、体力・運動能力の向上を目標に取り組む。
- ・種目に応じたグループ学習を取り入れ、生徒同士での教え合い、話し合いの時間を設け、深い学びの時間を設ける。
- ・毎時間のトレーニングを工夫して行い、技能を高める。

(健やかな体の育成)

指標：

- ① 生徒アンケートにおいて「体育が楽しい」の項目のポジティブ回答が80%以上を目指す。
- ② 生徒アンケートにおいて「体育が好き」の項目のポジティブ回答が80%以上を目指す。
- ③ 校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「とても思う」と回答する生徒の役割を50%以上を維持する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

取組内容⑨【4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈技術・家庭〉

基礎的な技能を習得させるにあたり、実習の手順作品の制作方法をわかりやすく伝えるため導入において ICT 機器やプリントを用いた説明を工夫する。

(誰一人取り残さない学力の向上)

指標：・技術家庭科共に校内学習意識調査における授業がわかるの項目を 78 %以上にする。

- ・技術では、多くの授業で ICT 機器等を活用し話し合いなども取り入れる。
- ・家庭ではパワーポイントなどを用い視覚的にも興味を持ちやすい授業づくりを行い学習意識調査「家庭科の学習は楽しい」のポジティブ回答を 86.5%以上にする。(昨年度 85.6%)
- ・生徒が ICT 機器等を使い調べ学習など自主的な学習を取り入れる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

取組内容⑩【4－3 英語教育の強化】〈英語〉

- ・デジタル教科書やパワーポイント等の ICT 教材を活用し、視聴覚に働きかけて生徒の英語への興味・関心を高め、「わかる授業」を展開する。
- ・C-Net と連携して生徒が自分の考えを英語で表現する授業を展開する。
- ・単元ごとに小テストを継続的に行い、基礎学力の定着を図り、学力差を軽減する。

(カリキュラム改革・グローバル化改革関連)

(誰一人取り残さない学力の向上)

指標：・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を全学年 75%以上にする。

- ・全学年で単元テストを行い、正答率を 6 割以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

取組内容⑪【5－2 健康教育・食育の推進】〈健康教育部〉

・『食育つうしん』の活用、保健委員会からの活動などを通して「食」に対する意義を理解させ、さらなる意識の向上を図る。

- ・保健委員会の活動を通して健康な心と体の育成に務める。
- ・環境委員会の活動や清掃活動を通して、校内美化の向上、校内施設・設備・備品の安全管理を徹底する。

(健やかな体の育成)

指標：

- ・校内調査において「給食をしっかり食べている。」の項目で、ポジティブ回答を 90%以上にする。
- ・校内調査において「早寝・早起きなど規則正しい生活を心掛けている。」の項目で、ポジティブ回答を 70%以上にする。
- ・校内調査において「学校は清掃が行き届き、いつもきれいである。」の項目で、ポジティブ回答を 85%以上にする。
- ・保健委員会から集会・放送・学活などの機会を利用した啓発活動を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立 (学校園名) 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかつた D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた	
年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○年度末の校内調査における「生徒用パソコンの使用や、話し合い活動を通して積極的に授業に参加している」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を87%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「ICT 機器を活用した授業は楽しい」に対して肯定的回答をする生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、授業日の20%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6-1 ICT を活用した教育の推進】(授業研究G・ICTG)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や様々な教育活動において、ICT 機器を活用し、学力向上をめざした授業研究を進める。 ・一人ひとりの教員が ICT を授業の中で有効活用して、自分の思う「わかりやすい授業」「考えさせる授業」ができるようにサポートを行う。 <p>(教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)</p>	
指標：校内調査において「(生徒用PCの使用や、話し合い活動を通して) 積極的に授業に参加している」の項目において学校平均80%以上を達成する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	
<p>取組内容②【6-1 ICT を活用した教育の推進】(ICTG)</p> <p>学習者用端末の利用を積極的に推し進め、使用のルールの周知を図りながら、端末やACアダプタの管理を行う。</p> <p>(教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)</p>	
指標：生徒意識調査で「ICT機器を使った授業」に対するポジティブ回答78%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

<p>取組内容③【8－3 学校図書館の活性化】〈図書委員会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣をつけるために、放課後開館等、図書館の利用を推進する。 <p style="text-align: right;">(生涯学習の支援)</p> <hr/> <p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒1人の平均貸し出し冊数を2.0冊になるように、取り組みをすすめる。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組内容④【9－1 教育コミュニティづくりの推進】〈元気アップG〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気アップ地域本部事業やそのボランティアとの連携を、地域に役立つ人材やリーダーの育成をはかる。 ・地域イベントへの参加、元気アップコーディネーターとの連携を通して地域貢献を行い、地域との繋がりを深める。 <p style="text-align: right;">(家庭・地域等と連携・協働した教育の推進)</p> <hr/> <p>指標 :地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、「地域の方と交流するのが楽しい」「地域の方と積極的に交流できた」の項目でポジティブ回答が共に83%以上を目指す。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組内容⑤【7－1 働き方改革の推進】〈管理職〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 <p style="text-align: right;">(人材の確保・育成としなやかな組織づくり)</p> <hr/> <p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に勤怠システムで、年次休暇習得率を確認する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	